

- (6):16: 382, fig. 5.
- 益本仁雄 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ). pl. 67, f. 32, P.377.
- 中根猛彦 (1961) 日本のこがねむし (ⅤⅡ). 昆虫学評論 12(2): 61-63.
- 中根猛彦 (1963) 原色日本昆虫図鑑Ⅱ (甲虫編). pl. 61, f. 24, P.122.
- 中根猛彦 (1992) 日本産ニセマグソコガネ類の種について. LAMELLICORNIA (8): 1-6, Figs. 5, 10 & 16.
- 野村 鎮 (1943) AEGIALIINAE に就いて. むし Vol. 15 : 111-112.
- 野村 鎮 (1960) 日本産コガネムシ類目録. 桐朋学報 (10):39.
- 辻 啓介 (1968) 兵庫県における甲虫の分布 (第一報). 兵庫生物 5(5): 402.
- 山屋茂人 (1992) 新潟県のトゲマグソコガネ. 月刊むし(261): 35.
- 八幡英夫 (1942) Caelius 属に就いて (鞘翅目: 金龜子虫科). 昆虫界 10(98): 217-219.

オオタコゾウムシ神戸市北区藍那にも産す

(兵庫県甲虫相資料. 290)

高橋 寿郎

1993年9月24日神戸市北区藍那での調査に蜂谷幸雄氏と一緒に出かけた。道端の樹木から下っている蔭性の植物を気にもかけず捕虫網で掬って1頭のオオタコゾウムシが入って来た。若干離れた所にクローバがあったので坐りこんで調べて見たら此处でも1頭のオオタコゾウムシがいるのがわかった。そこからかなり離れた地点で道端に生えている茅のような葉上で1頭を得た此处でも近くにクローバがあるので丹念に見たが他に見られなかった。この時期この種はクローバにいないのか、どうも食痕のようなものが葉にはあるのだが姿が見られない。夜食べて昼は他に移動しているのかよくわからない。兵庫区とは近い距離でありこの地にいても不思議はないと思う。今年は兵庫区内では姿をほとんど認められない。大開小学校でも今年は多く見られなかったようで9月11日と10月2日に採集された2頭を頂いただけである。

(1993. X)

(付記) 1994年日本昆虫学会第54回大会プログラムが送られて来てそれを見ていると大会第2日E会場(15:30)で平井剛夫・高橋敬一・白石昭彦・佐藤光一氏による“オオタコゾウムシの関東北部周辺での分布と草地における生息”という講演があることを知った。即ちオオタコゾウムシは北関東にも分布していることを知った(1994. 3月)。

アオマダラタマムシの畸型

(兵庫県甲虫相資料・291)

高橋 寿郎



アオマダラタマムシ

Nipponobuprestis amabitis (Snellen von Vollenhoven, 1864)

♂ 体長23mm

神戸市北区藍那にて1993年5月26日採集

U. Hachitani Photo.

アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabitis* (Snellen von Vollenhoven, 1864)は兵庫県下では稀種に属するタマムシと考えられる。県の中央部から北での分布が知られていない。

1993年5月26日神戸市北区藍那で道路側の葉上にとまっている1♂を蜂谷幸雄氏の協力を得て採集することが出来た。この標本は右上翅が畸型であるのでここに写真をつけて紹介しておく。短縮といった畸型になるかと思う。

神戸市内での本種の記録は関 公一氏が御影で採集されたものが一番古く(1933)、次いで六甲山の記録があり(1939)。東氏は有馬から記録しておられる(1971)。筆者は市内鳥原貯水池畔の道路上を歩いている1♀を採集したことがある(17・VI・1981)。また藍那付近にはわりと産するといった記録をしたこともある(1979)。

県下での記録は川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。宝塚市切畑, 売布神社〔伊藤, 1992〕, 三田市香下〔三木, 1977〕,

氷上郡神楽, 市島〔山本, 1958〕, 黒井〔東, 1971〕が知られており筆者は相生市三濃山で1頭採集した